

「テクニカルレポート 刊10周年に当たって」

代表取締役 社長 植松 富司



1987年10月、当社はブランド社名を全てコニカに統一し、翌年1月にこのC.I実施を記念して第1回のコニカテクニカルレポートを発刊しました。

以来今年で、第10号が刊行されることになりました。この間、振り返れば、マルチメディアを中心とする本格的な社会の高度情報化が急速に進み、当社の事業領域でもあるプロ・アマ写真分野、医用画像分野、印刷製版分野、複写機・プリンタ分野においても、デジタル化という技術革新の大きな潮流の中で、その技術進歩のスピードには目を見張るものがあります。

一方、市場経済について言えば、国際的なグローバル化、ボーダレス化が進行する中で、市場の地域性は薄れ、通商摩擦も国家間レベルの深刻な状況に発展していることは周知のとおりです。とりわけ日本経済については、全体として先行き不透明感があり、バブル崩壊前のような高度成長はもはや見込めない状況にあります。

流通構造の変化にともなう商習慣への影響、企業間の国際的な提携、熾烈さを増す競争による市場変動等、予測の難しい環境下で各メーカーは、如何にお客様から受け入れられる商品を世の中の変化に対応して、市場に迅速に提供できるかが至上命題となります。

技術開発の側面からは、開発のスピードの必要性はいうまでもなく、技術そのものにオリジナリティーがあること、そして何にもまして、お客様にとって魅力のある商品を提供するために洗練された感性に裏打ちされた技術開発が重要となります。

21世紀を目前にして、技術開発においても従来の業種別棲み分けの時代は、過去のものとなりつつあり、業種のボーダレス化と技術の高度ハイブリッド化が進んでいます。当社においては、永年培われたフィルム、カメラをはじめとする銀塩写真技術、情報機器分野では電子写真技術、医用・印刷分野での画像技術、CDピックアップレンズに見られる光学要素技術があり、画像情報分野で多岐にわたる独自の技術を保有しております。

これらの技術の融合を開発の中心に据え、市場、顧客の隠れたニーズを掘り起こし、新しい価値を創造して“魅力ある商品”をお客様に提供できるように、社員一丸となって邁進努力する所存です。

各界の皆様のご支援を願って止みません。